



世帯数 6,013戸
人口 14,041人
(令和2.7.1現在)

寿体育協会平成の活動報告

新型コロナウイルスの感染拡大により、当寿地区も各種大会・行事が中止となつています。

特に、寿体育協会（以下、寿体協）が主催する3大行事もその中に含まれています。

そこで、今回は、平成の活動状況をお伝えし、来年度以降、更なるご理解・ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

寿体協理事会の充実

現在、12町会から選出された町会理事、理事会から推薦された推薦理事・専任理事で理事会が構成されています。以前は寿公民館主事が各種会議資料を作成していましたが、理事会が作成できる体制（事務局）を平成15年から確立しました。

また、平成20年からは、三役の町会持ち回り制度が始まり、平成27年度より筑中CSふたむらの生徒がスタッフとして参加が始まりました。

平成13年度まで、当時の松原町会が参加し、同じく平成13年度から、寿田川町会が参加しました。（平成13年度は13町会）

「駅伝大会」(昨年で52回)

平成9年には、第30回記念大会が14区間、14・4kmで行われました。



令和元年度駅伝大会の様子

平成13年度までは、赤木町会上社前をスタートし、原則町会公民館前を中継点として、寿公民館ゴールの11区間14・5kmで開催していました。

道路事情・交通事情の関係で、警察より信号機の無いコースを求められ、平成14年からは、寿公民館スタート・ゴールの寿北六区内の9区間

9・9kmに変更しました。以降変更を加えながら現在に至っています。

「球技大会」(昨年で72回)

平成9年には、第50回記念大会が行われました。

大会本部や会場が、筑中グラウンドや芳川小学校の時もあり、会場の分散が問題でした。その後、平成23年からは、大会本部は寿公民館へ、会場は寿・内田地区内にまとまりました。

競技種目は変わらず続いています。少子高齢化により、参加チーム（町会）が減少しています。（特に野球・排球）これは今後の課題になります。

「住民運動会」

いつ頃始まったか過去に調査したようですが、わかりませんでした。記録や資料がありましたらお知らせください。

平成11年までは、マラソン・昼食（1時間）を挟み午後3時半頃まで、25種目行っていました。

運動会短縮の意見があり、平成12年よりマラソン・昼食を無くし、17種目に変更しました。

平成19年（松本市政100年



令和元年度住民運動会の様子

記念）で、廃止したムカデ競争等を復活させました。

平成27年でムカデ競争は終了、綱引きを2ブロック制にしました。14種目にし、変更を加えながら現在に至っています。

平成28年筑中CSふたむらの生徒によるパン食い競走への出場が始まりました。

令和元年、パン食い競走の町会代表選手による採点が始まりしました。

このように、交通事情や時代の流れ、少子高齢化等の影響を受けながら、理事会ではなんとか大会を継続したいとの思いで変更を加えながら続けています。

今後も寿体協へのご支援を賜われますようよろしくお願い致します。

【館報編集委員 清水壽雄】

裏面にて… 寿地区の歴史解説連載開始！

寿公民館の古文書講座、史跡めぐり、歴史学習等多方面で講師をお願いしている史談会顧問の青木教司先生の連載が全4回にわたって始まります。今回は、幕末に流行したコレラの歴史と対策についてとあります。

【館報編集委員会】

寿公民館 灯油漏出について

寿公民館での灯油漏出について、調査経過及び今後の対応を報告します。

【調査経過と結果】

令和2年4月13日に、寿公民館敷地内にて雨水枡内に灯油の流入を確認しました。掘削調査を行ったところ、公民館の灯油タンクと暖房機器をつなぐ地下配管が腐食したことで、暖房用灯油が地下に漏出していたことが確認されました。地下水へは流入しておりません。

【今後の対応】

今後は、漏出した灯油の回収・除去を基本として工事を計画します。灯油回収の際は、上下水道、雨水配管及び灯油配管の撤去・敷設を伴うため、公民館及び体育館は一定期間、トイレ及び調理実習室等の利用を停止し、工事期間中は仮設トイレを設置します。工事の範囲によっては、敷地内で一部通行ができなくなります。工事スケジュール等の詳細については、追ってお知らせします。

住民の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【寿公民館】

わがまちアジサイ

松本市の南端・赤木山に所在する「弘長寺」は、本堂の南側に約1500坪の大きなアジサイ庭園があることから、「あじさい寺」と呼ばれています。



弘長寺

このアジサイ庭園にはおよそ90種類という大変多くのアジサイが植えられており、庭園を順路に従って進みますと、慈母観音様、芭蕉の句碑、スイレンが咲く弁天池などをアジサイと共に鑑賞しながらゆっくりと巡ることが出来ます。

庭園のアジサイには、それぞれの品種の名前が掲げられており、アジサイ庭園の



芭蕉の句碑

美しいアジサイたち」という見方とは別に、庭園を美しく彩るそれぞれのアジサイの名前と姿かたちを知る事が出来ます。

6月中旬から7月中旬の見頃の時期には毎日多くの人々が美しく咲き誇るアジサイを見に訪れます。アジサイには遅咲きの種もありますので、見頃の時期のアジサイを鑑賞した後、改めて遅めの時期に訪れて見れば、また違ったアジサイの姿を鑑賞できるでしょう。

春先からの花の時期に外出を控えざるを得ない状況からようやく開放された今、美しいアジサイを鑑賞し、心を潤してみたいかがですか。



新型コロナウイルスの終息がいつになるのか心配は尽きません。ここ数ヶ月3密を避け、家に籠もり、新型コロナウイルスに効果のある新薬に期待し、ワクチンは何時出来るのか関心を持ってきました。

歴史を遡ると、安政5年(1858)寿地区もコレラの流行に巻き込まれました。安政コレラの感染源は長崎港に中国経由で入港した米国軍艦ミシシッピー号で、九州から上方を経て7月に江戸に至り8月に大流行し10万人とも30万人とも言われる死者が出ました。松本地方の流行は9月中旬頃からです。

コレラはもともとガンジス川流域の風土病で英国のインド支配以降19世紀前半から全世界に広がりました。激しい下痢と嘔吐をくり返し、脱水症状により死に至る病気で、コレラは代表的な経口感染症ですが当時はそれを知る由もありませんでした。

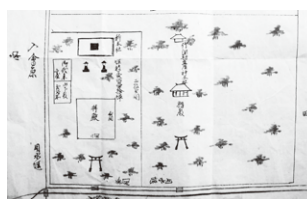
旗本領百瀬知行所の「御用日記控」には、「9月15日コロリ(コレラのこと)が流行し村井宿や野村で5、6人が死亡した。赤木村や小池村、内

エピソードで綴る寿の歴史 幕末のコレラ流行対策



田村、松本領の村々ではお祓いをしていけると伝え、松本の岡宮神社、筑摩神社、穂高神社でも祈禱が行われている」とあります。この時、代官が木曽福島へ出張中であつたため、10月3日に竹淵稲荷社で祈禱が行われました。下瀬黒村と白川村・百瀬村の3名の神主が終日祈禱を行い人々がお祓いを受けました。もちろん、陣屋からは代官と下役2名、村々の名主が詰め知行所総出の祈禱となりました。

これより以前、9月16日には領主諏訪頼負の江戸屋敷から幕府の暴瀉病(コレラ)の治療法が届けられます。「この病を防ぐには身体を冷やすことなく腹には木綿を巻き、大酒、大食を慎み、見馴れない食物を一切食べないこと、また病にかかった場合は、よく睡眠を取り、飲食を慎み、体を暖め、さらに「芳香散」という薬を用いると効果がある。作り方は桂皮(ニッケイ)と益智(シヨウガ科ヤクチの成熟果実)と乾姜(蒸した生姜を乾燥)の細末を等分に混ぜて用いる。また、嘔吐甚だしく総身冷える様になった時



祈禱が行われた竹淵稲荷社図(現在は竹淵諏訪社に合祀)
左が稲荷社・右が諏訪社

「竹淵溜池管理組合設立30周年記念誌」より

は焼酎1〜2合に龍腦または樟腦1〜2匁を入れ温め木綿に浸し腹、手足に静かにすり込む。あるいは「芥子泥」を用いる。作り方は芥子と小麦粉を熱い酢で堅く練り木綿に延ばして必ず下腹並びに手足に貼り、小半時(30分)ごとに取り替えること。また、熱い茶にその量の3分1の焼酎を入れ砂糖を少々加えて飲むのもよい。座敷を閉め木綿などに焼酎を漬けて何度も総身を擦るべし。また手足の先、腹等冷えるところに温鉄あるいは、温石を布に包み擦るもよい」と村々に通達されました。比較的庶民でも用意できる薬用素材で予防、看護の方法を示しています。祈禱による緊張や、廻達による人々の生活規制のためかこの年、寿地区ではコロリの発病は見られませんでした。

【寿史談会顧問 青木教司】

(史料「安政五年御用日記控」安政五年御用状綴) 松本城管理事務所蔵